

深川消防団ニュース



さきもり

発行 深川消防団

所在地 〒135-0042
東京都江東区木場
3丁目18番地10号
深川消防団本部

TEL:03-3642-0119

FAX:03-3641-4422

国の防災対策について聞く・・・(内閣府訪問)

泉 信也 内閣府特命担当大臣(防災担当)・木村 勉 内閣府副大臣(防災担当)



防災担当の木村 勉 内閣府副大臣

平成20年5月9日(金曜日)衆議院議員木村 勉内閣府副大臣に国の防災対策がどのように行われているかを、深川消防団宮内副団長他3名がインタビューのために、千代田区霞ヶ関3丁目中央合同庁舎第4号館にある内閣府副大臣室に向き、分刻みのスケジュールのお忙しい中、13時15分から30分間の取材をさせていただきました。

内閣府は、経済財政政策・防災・食品安全・地方分権改革及び地方再生などの各省庁にまたがった政策の取りまとめの機関であるとの事でした。

木村副大臣は消防団組織に例えるならば、団本部の中枢を担う位置ではないでしょうかとおっしゃっていました。

取材の内容は、防災対策についてお話をいただきました。

日本の何処かで震度5以上の地震が発生した場合は、政府関係関係は勿

論ですが、私も首相官邸内にある危機管理室に参集致します。

更に、私は防災担当副大臣として、政府の先遣隊で現地に一番に向き、現地対策本部長として陣頭指揮をとります。

また、東京に大地震が発生した場合は、有明に在る癌研有明病院の北隣隣の防災広場に、緊急災害現地対策本部(広域防災センター)が本年の6月20日に竣工し、供用開始予定であります。が、そちらに向き私が陣頭指揮をとることになりますとおっしゃっていました。

深川消防団管轄内に、この施設ができる訳ですから我が深川消防団は、いざ震災時には土気旺盛に活動を実施するということ心構えを常日頃持たなければとの思いを、取材に行ったメンバー全員が感じました。

消防団員の役割についてお尋ねすると、消防団員は究極のボランティアであると私どもは認識しており、数十年前は200万人の消防団員が活動していたと言うことですが、現在は年々減少していることに対し、憂慮しています。昔は、地元の自営業者の主人だとか、息子が消防団に入って地域に密着し、地域住民のために貢献しようというひとりが思い、粋な時代でありましたが、今の世の中はちょっとづつ変わってきているのではないのでしょうか。

との副大臣の話から消防団員の役割の大事さを痛感し、増員対策を大いに心がけていくと言う強いものが感じられました。

さらに、福田総理大臣が提唱しております「自然災害ゼロ」に対しても多くの場面で、消防団の活躍を期待したいとのご指摘を受けました。

木村勉内閣府副大臣のお図らいに、参議院議員 泉信也 国務大臣、国家公安委員会委員長、内閣府特命担当(防災・食品)大臣にお会いすることができました。

泉信也大臣も消防団員が減少していることに関し、大変危惧されていることを言葉の端はしから感じとる事ができました。

また、防災の専門官は木村副大臣であるから、何でも相談して下さいとおっしゃって頂き、感激して大臣室を後にしました。



泉 信也 防災担当大臣・木村 勉 内閣府副大臣と





ある分団員の 救助された！体験談

救急救命体験談の投稿が本誌にありましてので掲載いたしました。

この体験談は救急救命をした側ではなく、救急救命された側の体験談です。

『通勤途中、駅中で突然のめまいに襲われ、一時的に気を失ってしまい、目を覚ました時には、人の輪の中に倒れていました。』

その時、最初に聞こえてきた声が「だいじょうぶですか」と言う、女性の問い掛けの声でした。

その女性が何度も必死になって声を掛けていた様子を感じられ、その後も駅員さんへの連絡などもしていただき大変感謝しております。

消防団員として、救急救命の訓練をしておりますが、初期行動の問い掛けを始めとし、救急隊が来るまでの救急救命処置がいかに大切な行動であるかを実感いたしました。』

この実体験をもとに、我々が行っている訓練がいかに必要なものであるかを再認識しましょう。

(第六分団 某団員体験談より)

消防団と消防隊との 連携訓練

2月16日(土) 深川消防署裏庭において団本部及び十個分団の団員と消防署員による連携訓練が実施されました



増茂団長指揮の団本部が現場指揮本部となり、署本部との無線通信連携訓練、そして、各分団から随時入ってくる情報の整理・分団への指示等の連携訓練を実践しながら行った。



実際の現場を想定しての訓練のため、署員の厳しい声による指導に各団員は真剣な眼差しで訓練に参加していた。この様な連携訓練は全団員が体験できるような後計画をして頂きたいと感じました。

出張所訪問記

豊洲出張所



豊洲出張所長
消防司令 上原 伸一

豊洲出張所は発展著しい東京メトロ豊洲駅から徒歩2分の場所に位置する。同出張所が管轄する南部地区の豊洲一丁目から六丁目、東雲一丁目から二丁目の防火・防災の要として、所長以下38名の署員で任務にあたっています。

管内には造船所や工場の跡地等に集合住宅、オフィスビル、ショッピングセンターなどの建設が進み、定住人口、流動人口ともに急増しています。

また、30階を超えるマンションやオフィスビルが林立するため、万が一、火災、震災等が発生した場合、被害が拡大する恐れがあります。

その為、豊洲出張所と消防団(第十分団)が連携し、日頃から管内に居住する人並びに勤務する人の防火・防災意識を高め、地域の安心・安全を確保するため、防災訓練や啓蒙活動を実施しています。

同出張所には特別消火中隊が配備され、大型化学車、最大16mの高さから1分間に最大2000ℓの放水が可能。な屈折高所放水塔車、960ℓの水槽

を搭載する水槽付ポンプ車などを駆使しながら、多様化する消火活動に対応しています。

消防団員に対しては「普段から、消防団のみなさんの献身的な活動には心から感謝しています。今後とも署員との連携を深めながら、お互いに地域の安心・安全のために、がんばっていきたい」と述べられました。



経歴

東京消防庁に入庁後
練馬、荒川、四谷、国分寺消防署を経て

深川消防署に赴任する。
平成十九年十月一日付で

豊洲出張所長の職に就かれた。

(第十分団金 子編集員)

◆平成二十年度
深川消防少年団入卒団進級式

【期日】4月27日 場所／深川消防署

吉野佑治団長の訓示、育成委員長の挨拶の後、昨年度功労のあった指導者に対して表彰を行い、辞令交付へと続きました。今回は真新しい団服を着た33名もの将来有望な新入団員が任命を受け、とても頼もしく思えました。



来賓の方々か温かいお言葉をいただき、出席者同真剣に聞いてました。

団員代表が述べた言葉には、これからの訓練に対する思いが込められており、大変立派なものでした。練習を重ねてきた鼓笛隊の披露や、消防少年団の心得である「七つのちかい」の呼称があつて、閉会となりました。

各団員の規律正しい様子はとてもすばらしく、これからの活躍も大いに期待できそうです。

小学校一年生から中学校三年生までの子どもが所属する深川消防少年団の活動は毎月一〜二回程度行われ、通常は深川消防署にて規律訓練、火災・救

急に関する知識・技術の修得、鼓笛練習などを行っています。江東こどもまつり、江東区民まつりではパレードに参加して鼓笛披露を行っています。(今年は雨天中止)

秋の区民まつりでさらさら練習を積んだ鼓笛を披露してくれるものと思



更には体験学習、地域清掃奉仕活動、火災予防の呼びかけ等の活動も行っています。夏期キャンプ、クリスマス会では、団員の親睦を深めて団結力を向上させています。年度末には進級試験があり、どれだけ真剣に活動に取り組んできたかが試されます。このように多様なプログラムの下、消防少年団の目的である「防火防災に関する知識・技術を身につけて団体生活をとおりて責任感あふれる人間となつるとともに、社会に奉仕すること」を達成するために励んでいます。みなさんも消防少年団員の姿を見かけたら、一言励ましの言葉をかけてあげて下さい。

消防少年団の団服は

男子が紺の上下に紺のスカートと

女子がベージュの上下にオレンジのスカート、赤いベレー帽です。

(第五分団高橋編集)

私の好きな事シリーズ・6



予防課長
消防司令長 小島 政美

小島課長は、4月1日の人事移動により矢口消防署警防課長より着任されました。

入庁以来、各消防署を廻られながら担当地区の消防団員とさまざまな交流を持たれたそうです。半分は本庁での情報処理業務に従事しておられました。

そこでは災害情報処理システムを担当し、田中警防課長とも一緒に仕事をされた事もあるそうです。予防課は初めてですが、災害を食い止めるには必要な業務であるとお考えを示しておられます。

「消防署は点であり、消防団は面であると思われるので震災時には火災を出さない様に、地域の人々を指導する防災リーダーになる消防団員に期待しています」とのコメントがありました。

さらに、平成22年より義務化され

る「住宅用火災警報器の設置」には我々消防団員の啓蒙活動を是非お願いしたいとの事です。

ご趣味をお聞きしたところ、若い時はオートバイを乗りまわし、現在は3年前に他界なされたお父上が、熱心に育てていた「サツキ」いじりに没頭しております。

お父上が育てている時は他人事の様に見ていた「サツキ」でしたのでいざ自分で育てるとなると、解らない事ばかりで四苦八苦し現在育て方を勉強中です。

どなたか趣味にしていらつしやる方がいましたら「サツキ」の育て方を教えて頂きたいと悲鳴を上げておられます。

我こそはと思う方は、連絡をとりましょう。切なるお願いです。



家族構成は

奥様

お母様

一男三女(お一人はご結婚)

団活動あれこれ 始め式以降の!



◆玉入れ競技で
童心に戻る!

第十四回土気高揚体力練成会

【期日】2月24日 場所／深川六中体育館

幹事分団の、第一分団は各委員の発案により前回まで行っていた「ボーリング競技」が団体予約可能な施設がない等の理由により今回、誰もが思い浮かばなかった競技を土気高揚体力練成に選びました。

それは、世界大会もある「玉入れ」でした。

この競技は、ルールも単純かつ団員皆さんが気楽に楽しめます。



また身体的には、手や足を伸ばしたり屈んだりと以外にも全身を動かす為、体力練成にうってつけです、「2ブロック・5回戦総あたり」というルールで開始しましたが、最初は皆さんのんびりしていたのですが、対戦が進につれ本気モードに！選手交代自由なため毎試合、皆さん全力で競技に参加していました。

三月が近いとはいえ、かなり寒い日でしたが、屋内ということもあり汗をかきながら和気あいあい、皆さん童心にかえって一生懸命かごに入れる表情が印象的でした。

決勝戦は、紅白に分かれた小学校の運動会さながらの盛り上がりでした。

結果発表

- 優勝 第一分団
- 準優勝 第七分団
- 第三位 第九分団
- 第十分団



結果は第一分団が優勝（事前に練習という声、でもそれはありません）し、閉会式で増茂団長より優勝トロフィーを贈呈され無事に終了しました。（次回も「玉入れ競技」をとの声が 会場のあちらこちらから・・・）

（第一分団 長谷川 編集員）

◆消防団員の手作り神輿

入団促進に一役!

【期日】3月9日 場所／文化センター

「春のぶんか祭」において第七・第八分団員が警備するなか、子供神輿2基のパレードが行われました。

この神輿は第八分団の山添副分団長「手作りの神輿」に子供たちが飾りつ

けをしたもので、多くの子供たちによって区役所のまわりをにぎやかに練り歩きました。

当日は、さまざまなイベントや模擬店が催され、消防団も入団促進の活動を行いピラ配りや活動の説明などに大活躍の一日でありました。



（第八分団 井 編集員）

◆外国人対象の防災教室!

【期日】3月16日 場所／文化センター中庭

区役所となりの江東区文化センターで国際交流の集いが開催された。

区内在住の外国人による民族衣装のファッションショーやダンスが披露

され華やかな雰囲気の中、中庭では外国人対象の防災教室が開かれ、起震



車体験や第七・第八分団員による説明のもと初期消火訓練等が行われました。なかには民族衣装を着たまま消火器を操作する外国の方の姿も見られました。

不安な他国で、災害にあったときに頼りになる「深川消防団」の存在を十分にアピール出来たイベントでありました。

（第八分団 井 編集員）

◆研修旅行（第六分団）!

【期日】3月15・16日

第六分団では会津若松へ親睦を兼ねた研修旅行に行ってきました。

終日好天に恵まれ、最初の目的地である、栃木県防災館においては地震・煙・風・雨の実体験をいたしました。特に風・雨の体験では、台風時の出動を思い出しました。

その後、バス観光にて会津地区の歴史についても触れる事ができとても楽しい研修旅行でした。

（第六分団 青 柳 編集員）

平成20年度江東区・第七消防方面合同水防演習実施される

5月24日(土)豊洲会場において、本年度の合同水防演習が行われました。深川消防団は積み土のう工法、大型積み土のう工法の演習に参加しました。



演習はその他、城東消防団が参加した改良型積み土のう工法、第七消防方面内各消防署員によるマンホール噴出防止工法、地下浸水防止

工法などを行いました。さらに転覆した船からの救助訓練、中州に取り残された人をロープを渡して救助する訓練、消防ヘリによる救助演技なども行われました。

緊迫感を伴う訓練でしたが、実際の



水防においては非常に厳しい状況であることが予想されます。訓練を重ねるとは大変重要であると感じました。

この日は、訓練会場に「消防団員募集コーナー」が設置され、消防団員による広報活動も行われました。

このような訓練の見学を機に、消防団活動にも目を向けてくれる方が増えてくれたらと願います。



(第五分団高橋編集員)

消防団豆知識

救急隊の行う応急手当とは

最近では救命講習やAEDの取扱いなど、救命に関する関心が高まっています。また、救急隊も尊い命を救うために日夜救急活動に励んでいます。これら救急隊員の資格と応急手当等について紹介します。

救急隊員の行う応急手当の基準

救急隊員が行える応急手当は、国が定めた基準(消防庁告示)によって、その範囲が限られています。

★救急隊員

総務省令で定める課程の研修を修了した者又はそれと同等の学識経験を有すると同省令で定めた者で構成されています。

★応急手当を行う場合

傷病者を医療機関へ収容し、医師の管理下に置かれるまでの間、生命の危険又悪化の恐れがあると認められるものに対して行います。

★応急手当の原則

短時間に行うことができ、効果をもたらすことが客観的に認められ、複雑な検査を必要とせず、消防庁長官が定める資器材を用いて行います。

★救急隊員の行う観察

救急隊員は応急手当を行う前に、傷病者の症状に応じて、必要な観察を行います。

★救急隊員

顔貌、意識の状態、出血の状態、脈拍の状態、呼吸の状態、皮膚の状態、四肢の変形や運動の状態、周囲の状況等を観察します。

★処置拡大救急隊員と救急救命士

救急隊員の行う観察のほか、血圧計の使用、聴診器の使用、血中酸素飽和度測定器の使用、心電計と心電図伝送装置を用いた心電図伝送を行います。

★救急救命士

平成三年四月に「救急救命士法」が施行され、東京消防庁では平成四年六

月から高度処置救急隊として運用を開始しました。

★救急救命士が行う救急救命処置

法律の定めにより、症状が著しく悪化する恐れがあり、生命が危険な状態にある傷病者に対して、医療機関に搬送するまでの間にこれらの危険を回避するため、医師の指示の下に次の救急救命処置を行います。

- ① 半自動式除細動による除細動処置
- ② 器具を用いた気道確保処置
- ③ 輸液を行うための静脈路確保処置

これらの救急救命処置を行うには、細かなプロトコルが決められており、これに基づいて実施します。

★救急救命士の処置拡大

厚生労働省告示により救急救命士法施行規則の一部が改正され、一定の研修と病院での臨床実習を修了し、東京都メディカルコントロール協議会から技能認定を受けた者には、次の救急救命処置を実施することができます。

- ① 気管挿管
 - 直接に気管内にチューブを挿入し、人工呼吸を行うものです。
- ② 薬剤投与
 - 厚生労働大臣の指定する薬剤(アドレナリン)を静脈路確保したラインから投与するものです。



◆第三分団に

ポンプ積載車がやって来た

【期日/3月23日場所/深川神明宮】



とうとう第三分団に小型ポンプ積載車が配備されました。深川消防団の中では第十分団に続いて2台目です。正式な運用開始日は

4月6日からとなりますが、運用開始に先立って深川神明宮において3月23日(日曜大安)に安全祈願と地域の皆様にお披露目をさせていただきました。お披露目では第三分団担当区域内の各町会長をはじめ地域の皆さん・深川消防署の皆さん・深川消防団本部の皆さんに参列を頂きました。有難うございました。地域の安全を守るため現場対応・広報活動にと活用させていただきます。



小型ポンプ積載車



それではクイズです。Q なぜ第三分団にポンプ積載車が配備されたのでしょうか?

- (1) 第三分団の日ごろの活躍がめざましいので
 - (2) 車庫のスペースがあるから
 - (3) 分団長が二枚目だから
 - (4) 深川消防団の一番北側が活動地域だから
 - (5) 増茂団長がくじ引きで決めた
- 正解は。。。秘密です。
(第三分団阿部編集員)

◆毛利小の生徒が消防車両と可搬ポンプを写生

【期日/5月8日場所/毛利小校庭】

毛利小学校で児童3・4年生を対象に消防車両の写生会が行われました。



当日は天気もよく少し汗ばむなか生徒達は、消防署員の火災の怖さ・初期消火の大切さ等の説明と小林分団長の消防団員はみなさんのお家の近所の方が働きながら活動している等の説明を真剣に聞いてくれました。また、実際に防火服姿で消防署員が放水すると、壁にあたる水の強さに驚いていた!

消防活動のミニ勉強会のあと写生会に移りました。



森下出張所の「ポンプ車」や第一分団の「可搬ポンプ」を絵の具を使い描いていました。写生の構図が「前に消防

署員の放水、バックにポンプ車・可搬ポンプ」というのも人気でした。

写生する、児童の横顔を見ていると消防という言葉に関心がある事がよくわかり頼もしくも思いました。

我々消防団員としては、日頃の訓練や操法大会等で、活躍している可搬ポンプを多くの生徒が描いてくれると嬉しかったのですが、現実には「ポンプ車に負け」でしたが、お話し&実演ありの大変有意義な写生会でした。

今後は可搬ポンプの実演も出来れば!

(第一分団原田班長)

表彰者の紹介

始め式以降の

- ◆消防長官表彰(永年勤続功労賞) (三月)
- ◆第二分団前分団長 小村 一利(退団)
- ◆日本消防協会表彰(功績章) (三月)
- ◆第十分団 分団長 水越 昭雄

◆日本消防協会表彰(勤続章) (三月)

- 第八分団 部長 鳩貝 秀紀
- 第三分団 部長 杉江 隆
- 第九分団 団員 佐藤 昌吉
- ◆東京都消防協会表彰(功労賞) (三月)
- 第七分団 副分団長 勝山 瑛登志
- 第九分団 副分団長 上野 一義
- ◆東京都消防協会表彰(優良賞) (三月)
- 第一分団 部長 佐藤 健一
- 第四分団 部長 佐々木 正広
- 第六分団 部長 大須賀 茂
- 第七分団 部長 石川 徹
- 第七分団 部長 阿曾 昌司
- 第七分団 部長 長谷川 末忠

「ワンポイント」

『あれっ、異臭?煙や火の気もないのに・・・わずかに感じて』

自分の為にも、周囲の人の為にも

●臭いを無視せず、すぐに避難

●速やかに、一一九番へ通報

●「火事ですか、救急ですか」と聞かれ

たら「異臭です」と答える

こういう場面に遭遇したら

二次被害を防止、素人考えは捨てる!

編集後記

内閣府の取材の帰途、日比谷公園が目に入った。ここに日比谷松本楼がある。先々が当時、中国の孫文に現在の価値で二兆円の資金援助をした。さらに此処は福田赳夫元首相が結婚披露宴を催した所でもある。この縁(えにし)で中国の胡錦濤首相が来日した日の福田康夫首相との非公式夕食会が日比谷松本楼で行われた。縁とはこの様に想像を超えた以上の事であると思がする。我々の消防団活動においても消防団、消防署、地域社会等の縁を大切に行っていたいと思いがした。(順珍漢)